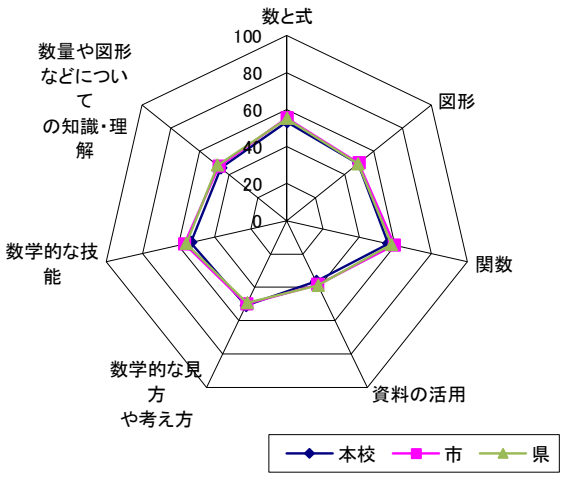
宇都宮市立豊郷中学校 第２学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	53.3	55.4	55.0
	図形	49.3	49.8	49.2
	関数	56.2	59.6	58.0
	資料の活用	36.5	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	50.9	50.0	49.3
	数学的な技能	53.2	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	45.6	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○与えられた式をもとに碁石の数を求められる理由を説明する活用の問題では、県、市、いずれの平均正答率よりも5ポイント以上上回っている。 ●県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は下回っている。特に、１次式と数の除法の問題では、約11ポイント下回っている。	・正負の数の計算や文字式の計算、1次方程式を解く問題などの基本的な計算技能が身に付いていない生徒が多い。そのために、授業の中で、プリントやワーク等を用いた反復練習を取り入れ、基礎・基本をしっかり身に付けさせたい。また、自分の考えを説明するような活用問題については、さらに力を伸ばしていくために、授業の中で言語活動を取り入れていきたい。
図形	○県の平均正答率と比べて、わずかに上回っている。作図の問題では、県、市、いずれの平均正答率よりも8ポイント以上上回っている。 ●市の平均正答率と比べて、わずかに下回っている。柱体と錐体の体積を比較する問題では、県、市、いずれの平均正答率よりも約5ポイント下回っている。	・おうぎ形の面積や立体に関する問題について、課題が見られる生徒が多い。おうぎ形の面積のように、公式がある問題では、公式だけに頼るのではなく、なぜその求め方でできるのかという部分をしっかり理解させたい。また、立体に関しては具体物を使って考えたり、自分で作成したりするなどしてイメージしやすくしていきたい。
関数	○水槽の深さと時間の関係をもとに考える活用の問題では、県、市、いずれの平均正答率よりも5ポイント以上上回っている。 ●県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は下回っている。特に、比例のグラフから式を求める問題では、約11ポイント下回っている。	・グラフを描いたり式を求めたりするなどの基本的な内容が身に付いていない生徒が多い。特に、グラフに関しては、与えられた座標をグラフ平面上にとるという作業を苦手としている生徒も多いため、もう一度学び直しの機会を設けていきたい。身近な2つの数量の関係などを用いて、表、式、グラフの3つの表現方法について、それぞれの便利さなどに気づかせ、それを学ぶ意味を感じさせた
資料の活用	○条件に合ったものを選び、その理由を説明する活用の問題では、県、市、いずれの平均正答率よりも上回っている。 ●県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率は下回っている。特に、度数分布表の中央値に関する問題では、5ポイント以上下回っている。	・資料の活用における、用語の意味やその求め方について定着が図れていないため、何を求めたらよいかが分からない生徒が多い。反復学習とともに、実生活の中での有用性を示しながら定着を図っていきたい。